

郡は傳へしより書付亦も此處とあり尚村
水牯面は山嶺より下田又丁八反二畝一歩け
石六十に石に合百姓分とありを舊家の古
記よりいづるを掃除免百姓分とに水牯面と
見るに二十人おに刻むてあり其内大蔵
佐藤おとつとあるおといふ古より上内
は位一古社地の境内なりとて正年傳て其名をふ
改してありを被出を始二十人の百姓隔日
は兼仕しとてとて忌用志する上下等
お社の御殿よりありに室永年中お社を

上の附焼失ふとてとてお殿を十部と
築岩武たおつ神を衆をを孫めしる以来百
姓は兼仕の事も後果られれば神のぬもある
まや正年大蔵佐藤おとつとあるおとつとある
云部たおつ久七七たおつおといふものの七
人とお殿を今僅は血脈の跡をいふとある
のこなり林泉坊といふ元院おに古き百姓の跡
をいふ一二軒あり人おを替れ又丁八反お
畝一分の田地今以てあれを領主より作下
され古來のおとて数人を急度事し